

挨拶

謝 辞

被表彰者代表

萩 原 恒 昭



凸版印刷の萩原でございます。

ご指名でございますので、僭越ではありますが、被表彰者を代表して、一言ご挨拶をさせていただきます。

このような立場でのご挨拶は、普通は、そもそもの知財協との関わりのあたりから話を始めるものですが、今日はたくさんの印象に残っている思い出のうち、3つだけお話させていただきたいと思っております。

まず、最初に、専門委員会の委員長であったときの出来事をお話しさせていただきます。もう、12、3年前のことになるかと思いますが、時の執行部が専門委員会の数を減らすと宣言されまして、具体的にどことどの委員会をくっつけて、とか、この委員会は不要だとかの検討を始めたということでありました。委員会を減少させる理由の説明があったわけですが、とても合理的な理由とも思われず、全委員長が集まって議論して意見書を作成、執行部に提出し、その後紆余曲折はありましたが結局その提案は撤回するという事になったことがありました。執行部の方々はクーデターかと驚かれたようでありまして、決してそんなことはないのですけれども、今考えると、当時の委員長クラスはそれなりのうるさい連中がそろっていたように思います。

次にお話し申し上げたいことは、理事長時代のリーマンショックであります。理事長を内諾するタイミングは大よそ前年の10月頃なのですが、2008年の10月に米国のリーマンブラザーズが破綻し、そのときはアメリカも大変だなあという対岸の火事状態であったのですが、まさか年が明けてあのような大不況が日本を襲うとは夢にも思わず、お気楽に引き受けたのですが、あのまさかの大不況を受けて、協会の収入の柱である研修収入が、受講者の減少で前年度より3割がた減ってしまうことが予算策定時にわかってきまして、当時の中山専務理事とその対策に1年を費やした、ただそれしかなかった理事長ということになってしまいました。

3割減というと、約1億5,000万円ほどの減収となります。これをアクション50：50という対策プログラムを無理やりひねくりだしまして、これは収入増強5,000万円、支出削減5,000万円という意味なのですが、追加の研修事業を組んだり、研修施設費用を削減したりといろいろと手を打ちまして、その結果なんとか決算は8,000万円ほどの赤字で押さえることができました。このときほど人材育成委員会などの関係の方々のご協力がありがたかったことはありません。改めて感謝を申し上げる次第であります。

ただ、考えてみると、それまでの協会の運営はどちらかというと如何に黒字を減らすかということ

に主眼をおいた活動計画を組んでいたのですが、それ以降は減少した研修収入が元へ戻らず、ここ数年赤字予算を組まざるを得ない状態になっているようでありますので、そろそろ活動を全面的に見直す時期にきているのかもしれませんが。

そんなことで、前向きなことはあまりできず、毎月の常務理事会が終わった後、知財協のビルの地下にある「野らぼー」という昼は讃岐うどん屋、夜は飲み屋の店で、中山専務理事に付き合っていたいて、アルコールをちょっと入れながら私の愚痴のようなつぶやきを、何と中山さんは嫌な顔もせず聞いていただき、しかもちゃんと整理してまとめていただいていたいて、これを次の理事長であるソニーの守屋さんに申し伝えていただき、活動に反映していただいたと知り、大変嬉しかったことを覚えております。今日のご出席になっていないと思いますが、中山前専務理事にはその節は大変ご迷惑をおかけしました。

最後に、やはり毎年このご挨拶で歴代の方々がおっしゃっていることですが、協会の活動を通じて、自分のレベルアップと人間関係の構築について触れておきたいと思えます。知財協という諸先輩方が築かれてきた舞台の上で、自分に与えられた役割を他社の方やスタッフの皆さんと一緒に活動できたことは、やはり自分をいろいろな面でそれなりに育ててくれたと思っております。しかも、手弁当で会社の業務をこなしながらの活動は、時にはナンデこんなしんどいことやってんねやろ！と思うこともありました。

中でも、専門委員会の活動は、まさに他流試合で、自分の知らないことや経験したことのないことを皆さんが知っていてすごいと思ったり、なんとか恥ずかしくない程度のことを発言したり、書いたりしたいという思いでやっておりました。ただ、委員会の終わったあと、阿吽の呼吸で必ず何人かで暖簾をくぐった、以前の協会事務所があった八丁堀のビルの斜め向かいの、覚えていらっしゃる方もおられると思えますが、居酒屋「ひさまつ」の時間が本当の委員会だったのかもしれませんが。実は、この前近くまで行ったものですから、この店がどうなっているのかと久しぶりに訪ねましたところ、変わらず繁盛しております、しかも景気のいい店主が顔を覚えていてくれて、ひそかに嬉しかったですね。

いずれにしろ、委員会を含めた協会活動での企業の垣根を越えた付き合いが、その人のレベルアップとかけがえのない人間関係を構築することができるということは間違いありません。特に、専門委員会は、まさに知財協の活動の礎でもあります。最近2、3年で委員を辞めてしまう方が多く、委員会が、あまりよくない意味で若返りしていると聞いております。いろいろ事情がおりかと思うのですが、人材育成のため、また知財協の活動をよりレベルの高いものにするために、ここにご出席の会社代表の方には、派遣される委員の就任期間については少しばかり長い目で見ていただければありがたいと思っております。

以上、思いつくままにお話しいたしました。まとまりのない話で申し訳なく思っておりますが、最後に皆様の会社と知財協の益々の発展を祈念いたしまして、御礼のご挨拶とさせていただきます。本日は、まことにありがとうございました。